第４回のテーマ

資産形成にあたって押さえたい主な金融商品の種類・特徴

お金を増やすには、働いて稼ぐこと、稼ぐ力を高めることが基本ですが、稼いだお金を増やすという方法もあります。例えば、金融商品への投資です。今回は、代表的な金融商品である、預貯金・債券・株式・投資信託の特徴について紹介します。

その前に、資産形成を行う人にまず理解しておいてほしい、①「複利」と②「安全性・収益性・流動性」について説明します。

①複利

元本に加え、得られた利息も運用に回すことで、その利息にも利息がつくことを「複利」といいます。安定的に資産形成を行っていくうえでは、短期の収益を求めて売買を繰り返したり、分配金（利益）を頻繁に受け取るのではなく、長期間じっくり運用して、複利の効果を得ることも有効です。

②安全性・収益性・流動性

お金が減らないか（安全性）、利益が期待できるか（収益性）、必要なときにお金を引き出しやすいか（流動性）という金融商品を選ぶ基準です。３つすべてを満たす金融商品はありませんので、目的に応じて使い分けたり、組み合わせることが大切です。

主な金融商品を安全性・収益性・流動性でみると…

ⓐ預金・貯金

銀行（預金）やゆうちょ銀行（貯金）などに預けている私たちのお金は、買い物、公共料金やクレジットカード等の支払いに使われ、日々の生活に欠かせないものです。そのため、必要なときにいつでも引き出せますし（流動性：◎）、銀行が倒産しても、１０００万円まで（とその利息）は全額保護されます（安全性：◎）。一方で、普通預金の金利は年０・００１％ほどです（収益性：△）。

ⓑ債券

国や地方公共団体、会社等が、金融機関や一般の人から広くお金を借りて資金を調達する方法です。会社等は、利子を支払う時期や利率、満期（返済時期）をあらかじめ決めた「債券」を発行し、私たちは金融機関を通じて購入します。その後は定期的に利息の支払いを受け、満期日に購入した元本（「額面金額」という）が払い戻されます（「償還」という）。

もしも債券を発行した者が倒産すると、お金が返ってこない可能性があるため、安全性は発行者の信用力次第です。収益性は一般的に預金より高く、株式より低くなります（収益性：○、安全性：○）。満期前に売却して現金に換えられますが、金利などの影響を受けて価格が変動し、売却価格が額面を下回って元本割れとなる可能性があるので、満期まで持つことが原則です（流動性：△）。

ⓒ株式

株式会社が金融機関や一般の投資家から広く資金を調達する方法です。会社が利益を上げると、その一部を配当として株主に還元します。そのため、多くの人が「この会社は成長しそう」と思うと、皆がその株式を欲しがるので、株式の値段（株価）が上がります。株価が上がったタイミングで株式を売ることで、大きな利益を得ることもできます（収益性：◎）。

一方で、会社の業績が下がると株価は下がります。業績が下がる原因は、災害や国内外の政治・経済状況など、予想困難なものも多いです。また、株式は会社の所有権の一部なので、会社が倒産してしまった場合は価値がゼロになってしまいます（安全性：△）。

株式は比較的簡単に売って現金に換えることができますが、手元に現金が入るまで数日かかります（流動性：○）。

投資の初心者でも始めやすいものが多くある

ⓓ投資信託

投資信託とは、多くの人のお金を集めて、専門家である資産運用会社が株式や債券などに運用するものです。「ファンド」ともいいます。個人が個別の会社の株式や社債を選んで運用するには、投資の知識や経験、まとまったお金がないと難しいことが多いですが、投資信託は、専門家が運用し、毎月１０００円など少ない金額からでも投資できて、初心者でも始めやすいものが多くあります。

また、多くの金融商品に投資する「分散投資」を行うものであれば、元本割れのリスクを抑えることができます。投資信託の中には日本企業２０００社以上の株式に投資するものや、全世界の株式に投資するものもあります。そのため、投資信託の収益性・安全性は、その投資信託が何に投資しているか、次第となります（収益性：○～◎、安全性：△～○）。

投資信託も株式と同様に、比較的簡単に売って現金にできますが、手元に現金が入るまで数日かかります（流動性：○）。

このように、絶対に安全でかつ儲かる金融商品はありませんが、次回は、できるだけ元本割れのリスクを抑えた資産形成の方法で、税金も抑えられる制度である、つみたてＮＩＳＡやｉＤｅＣｏについて紹介します。 BB

Profile

中村香織
金融庁総合政策局総合政策課総合政策管理官

なかむら・かおり●2020年7月より、金融経済教育等を担当。子ども向けの学習ドリル「うんこドリル」と連携した、小学生向けコンテンツ「うんこお金ドリル」の作成にも携わる。

今回のポイント

- **資産形成を行う際には、まず①「複利」と②「安全性・収益性・流動性」について理解することが重要**
- **安全性・収益性・流動性すべてを満たす金融商品はないので、目的に応じて使い分けたり、組み合わせることが大切**

「金融経済教育」の時代に必須の取組み！
若年層取引につなげる情報提供
若年層の金融リテラシーの向上や次世代取引につなげるために、行職員が押さえておきたい金融・経済にまつわる知識などについて、教育関連現場の視点も交えて紹介します。